

追 悼



吉村典夫先生の逝去を悼む

本会々員吉村典夫先生は、昭和59年1月10日より入院加療されておりましたが5月1日午前0時10分、胃癌のため、息を引きとられました。享年59才でありました。

先生は大正13年9月13日横須賀に生まれ、東京府立第6中学校を経て、昭和23年東京農業大学農学部農芸化学科を卒業されました。卒業論文は「Phenol樹脂の硬化現象に就て」であり、先生を中心に、同期生の卒業論文の抄録集を作成されました。このことは後に先生が情報学へ進んだ足掛かと思われま。昭和23年4月から昭和39年3月まで、中学校の化学、高等学校の化学、物理学の教師をされました。多くの教え子は、先生の教えに感銘し、生前、よく、会を持たれていました。昭和39年4月から昭和54年3月まで科学技術館（財団法人日本科学技術振興財団）に学芸員として勤務され、ここで大塚明郎先生に教えを乞い、後に情報学へ進む機会を得られました。昭和45年には日本博物館協会から「理工学博物館の展示と管理」に対し、棚橋賞を受賞されました。

科学技術館のシステム開発部に勤務されていた時には、農学研究課題検索システムの開発に携わり、現在このシステムを大いに利用されています。この多忙の中にあっても自己研鑽に努められ、昭和49年には、情報処理部門では数少ない、情報処理技術士の資格を取得されました。昭和54年4月から、母校東京農業大学総合研究所に勤務され、先生ご自身の情報学の研究と研究者に対する情報の諸問題についてもサービスを行っていました。ときに先生は当代まれにみる仕掛人といわれているように、総合研究所主催によるところの国・内外の学識経験者や政財界人を集めて、講演会や研究会、研修会などを開催し、毎回、全国各地から、多数の参会者があり、成功裡を納めていました。これも先生の幅の広さを示すものだと思います。先生はいかなる会合においても会が静まれば、会を盛りたて、常に、にぎやかな会としていました。因みに先生の趣味は、料理、落語、謡でありました。

昭和57年から、同大学に学芸員課程が設置されたと同時に、移籍され、科学技術館時代の体験を大いに発起され、学芸員の養成に専念されました。一方、情報学においては、「研究課題の機械化検索システムの開発」を行い、博物館、図書館の分野に、このシステムを紹介し、特に日本農学図書館協議会、日本ドキュメンテーション協会などで活躍されました。また、昭和44年10月から亡くなるまで本会の委員をされました。

先生の想い出は尽きませんが、今は御冥福を祈るばかりです。

なお先生の著作は「吉村典夫著作集」として、東京農業大学図書館に収められています。御遺族住所「東京都世田谷区用賀2-28-14 吉村光子様」です。 (梅室英夫)